



# AUW-JKSK連携プロジェクトについて

2013年6月25日

AUW-JKSK連携プロジェクト運営検討委員会

# 1.アジア女子大学(AUW)とはー概要ー

アジア女子大学は、能力が高く有望な女性たちを、斬新なリベラルアーツ（一般教養）を通して育成し、地域の課題に立ち向かい、真の変化を起こすことができる思慮深く、倫理意識の高いリーダーを輩出していきます。

設立 2008年4月

所在地 バングラデシュ チッタゴン

バングラデシュ議会はAUWの設立を認可し、AUWに学問の自由、教育機関としての自治を認めると共に約100haの土地を供与しました。



# 1. アジア女子大学(AUW)とはー学生ー

アジア女子大学では、アジア諸国から学生を受け入れています。  
様々なバックグラウンドを持つ学生が共に学ぶことを通して、多文化理解を促します。



■ 2013年1月17日現在 535名在学

サクセスアカデミー 87名

学部 448名

■ 出身国 12か国

アフガニスタン、バングラディシュ、ブータン、  
カンボジア、中国、インド、ミャンマー、ネパール、  
パキスタン、パレスチナ、スリランカ、ベトナム

## 2.認定NPO法人女子教育奨励会(JKSK)について

2002年の設立以来、これまで日本社会で十分に活用されてこなかった女性の活力を社会の活力の源泉とし、男女の割合が50%ずつ参画し、それぞれの能力を発揮し、日本社会を「経済至上から社会・環境・経済調和の社会へ」、「均質性から多様性へ」、「競争から共生へ」等の価値観を重視するサステナブルな社会へと転換することを目指している。具体的な取り組みとしては、ワークライフバランスやダイバーシティの推進をテーマとした研究会やシンポジウムの開催、また2009年にはJKSK-WE基金を設立し、アジア女子大学(AUW)との連携プロジェクトなどを行っている。2011年の東日本大震災後には、東北の女性リーダー達が持てる能力を存分に発揮し、取り組もうとしている復興活動を共に考え、共に支援・協力・応援をしていくために立ち上げたプロジェクト、JKSK結結プロジェクトを行っている。

理事長 木全ミツ

1960年4月 労働省職業訓練局  
労働大臣官房国際労働課国際渉外官・課長補佐  
職業能力開発局海外協力課長

1986年1月 国連日本政府代表部公使 (New York)

1989年1月 労働大臣官房審議官

1990年1月 ジャスコ株式会社顧問

1990年6月 (株)イオンフォレスト(The Body Shop, Japan)代表取締役社長(創業社長)

2002年3月 認定NPO法人女子教育奨励会(JKSK=女性の活力を社会の活力に)理事長

### 3.AUW-JKSK連携プロジェクトとは一趣旨一

「アジア地域の持続可能な発展、経済成長、社会・政治的安定の実現には、一部の男性だけに高等教育が与えられるのではなく、有望、有能であるにも関わらず、機会が与えられていない女性達に教育、とりわけ高等教育を提供することが非常に重要である」という考えの下に設立されたアジア女子大学(AUW)。

「日本はアジアをはじめ諸外国抜きには生きていけないという現実」  
「アジアの健全な社会が維持されてはじめて健全な日本社会が維持される」

という基本認識のもとに、私たち日本(日本人)は、アジアのリーダー国として、世界第二の経済大国として、AUWの目指す目標の達成に貢献していくべきではないのでしょうか。

特に、「女性の活力を社会の活力に」(Empowering Women Empowering Society)を標榜するJKSKが、アジアの有能、有望な女性達をエンパワーしていこうというAUWと連携し具体的なプログラムを通して協力、交流、支援していくことは、「女性の活力活用の推進」ひいてはアジア地域の安定した、持続可能な健全な社会の実現に大きく寄与するものであると考えています。



### 3.AUW-JKSK連携プロジェクトとはー構想ー

- i) AUW-JKSK奨学生に対する奨学金による教育支援(5カ国5人)  
(@20万円/年、600万円/6年)  
毎年入学する学生(5名)を支援するのではなく当面、2010年秋入学の学生のみを支援対象とし、経験を重ねる上で、また募金による資金の集まり具合も勘案して、支援の拡大などについては、検討していくこととする。
- ii) メールによる交流、意見交換(AUW-JKSK奨学生とJKSK会員等～Communication Mates)
- iii) AUW-JKSK奨学生の日本への招聘  
インターン、短期研修、交流、体験など
- iv) 日本からの学生の派遣(留学、ボランティア活動など)
- v) JKSK関係者の現地訪問(AUW-JKSK奨学生、AUW経営陣、教職員などとの交流、Gramine銀行、BRAC訪問など)
- vi) その他





## 4.活動①－JKSK-WE基金の設立

AUW-JKSK連携構想の実施に当たり、JKSKが国内外を問わず、今後Women Empowerment活動の支援を行っていくための支援基金としてJKSK-WE基金を設立し、その第1プロジェクトとしてAUW-JKSK連携プロジェクトを位置づけました。

そして一人でも多くの日本人が、アジアの一員として、AUWを自分の身近な存在と考え、「私も協力しているんだ」「こんなに多くの人たちが協力、支援しているんだ」と実感し認識できるよう、JKSK会員中心にOne Coin/Everyday運動を呼びかけ、実践しています。



## 4.活動②ーJKSK奨学生への教育支援

2009年12月、AUW-JKSK間で締結された「AUW-JKSK Partnership Agreement」に基づき、JKSK奨学生に対する奨学金による教育支援を行っています。

■2010～2015年の6年間

■@20万円／年×5名×6年＝600万円



Ganga Silva(スリランカ) Hanh Ngo Hong(ベトナム) Sabina Magar(ネパール) Mingzhu Ha(中国) Arpita Palit(バングラデシュ)



## 4.活動③ーJKSK奨学生との交流ー2012年招聘事業ー



■2012年7月の1か月間、インターンシップとしてJKSK奨学生5名を招聘しました。

■JKSK会員を始めフレンドリー企業の皆様の協力を得て、聞香、箏などの日本文化体験からスタートし、日本への理解を深めることができました。



## 4.活動③ーJKSK奨学生との交流ー2012年招聘事業ー



■JKSKフレンドリー企業の東芝・電通・イオン・FIAT・パソナ各社での企業研修が約3週間にわたって行われました。

～研修テーマ～

「CSR、SRを基本に、日本社会は、日本企業は、いかに対応しているか」

■日本の大学生との交流を経て、海を超えた友情が結ばれました。

手帳プロジェクト  
早稲田大学  
福島大学 等





## 4.活動③ーJKSK奨学生との交流ー2012年招聘事業ー



■週末を利用した視察・見学では、JKSK会員らと東北復興地(福島県いわき市)へ行き、震災から1年4か月経ってもなお爪痕が残る風景を目の当たりにしました。復興に向けての事業である、「いわきオーガニックコットンプロジェクト」を訪ね、草取り作業も行いました。福島大学など首都圏以外の学生とも交流をし、同世代同士の友情を深めました。

## 4.活動③ーJKSK奨学生との交流(2012年招聘事業)

### インターンシップを終えた5カ国5人のJKSK奨学生の感想

\* 日本人の礼儀正しさ、おもてなしの姿勢、交通信号を守るなど公共のルールを守ることが、自分だけではなく社会のすべての人々の安全を守るという習慣が身についていることの素晴らしさ、大切さを学んだ。このことを、自分の描く将来の社会で、実現していきたい。

\* 被災地東北(いわき市)の訪問・体験のなかで、被災地の方々から直接話を聞き、支援協力している立場の人々の実際の姿に接し、漠然と考えていた「必要としている人々に手を差し伸べ、社会に奉仕する生き方をしたい」という思いを一層強く、明確に心に刻むことが出来た。

\* フレンドリー企業数社でインターンをさせていただいたが、どの企業も収益を上げることと同じ程度に「社会の中でのその企業の存在価値」を高めることに心血を注いでいることに、企業のあり方について大きな勉強をさせてもらった。

\* 将来、自らNPOを立ち上げたいと思っている自分にとって、JKSKの皆さんの使命感、姿勢、行動力、具体的な行動の実態等から、漠然としか考えていなかった自分を反省し、明確な目標を持つことが出来、最高の学びであった。

\* 女性のリーダーとして何をしなければならないか、どうあるべきかについて、理論的にはわかっているが、社会の偏見、個人的な先入観に押しつぶされそうになり、一歩も二歩も前に出ることが出来ない自分を感じていたが、「議論をするのではなく、戦うのではなく、自分が行動を通して、実力を示すこと、存在価値を示すことにより、他とは異なる自分を客観的に示していくこと」が、最も重要ではないか…ということを学んだ。

\* 私は、今回が初めての海外旅行の体験であったためか、想像以上に、期待をはるかに超えた体験、経験をした。震災の被害にあった東北の被災者たちは、家族を失い、住んでいた家を失っているにもかかわらず、打ちひしがれているどころか、生きていくために、よりよい社会の創造のために夢を語り、具体的な目標に向かって走っている、女性リーダー達その顔は輝き、楽観的で、意思の強いのに驚くというより、多くを学んだ。